



全標協広報

2022 7
NO. 352

○通常総会を開催	1
○会長挨拶	2
○会長表彰被表彰者	3
○祝辞	4
○令和3年度事業報告	5
○各支部総会開催状況	7
○点検診断士更新研修が始まります	7
○EDRとCDR	8
○役員就任挨拶	10
○事務局長就任挨拶	11
○お知らせ	12

発行所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-19にしかわビル3F （一社）全国道路標識・標示業協会
TEL 03-3262-0836 Eメール soumu@zenhyokyo.or.jp ホームページ：<https://www.zenhyokyo.or.jp/>

第59回通常総会が開催されました



6月1日（水）、東京都千代田区のホテルグランドアーツ半蔵門において通常総会等が開催されました。

通常総会に先立ち、13時30分から全国支部長・県協会長会議が開催されました。同会議は3年ぶりの開催です。会議では国土交通省不動産・建設経済局西山茂樹建設市場整備課長の「最近の建設業を巡る状況について」と題する講演が行われました。また、関西支部鳥山政博支部長、同辻野善久事務局長から、10月に予定されている「西ブロック内支部長・県協会長会議」の開催について説明がありました。



続いて14時40分から第59回通常総会が開催されました。

総会は、清水会長の挨拶の後、来賓の警察庁楠芳伸交通局長と国土交通省村山一弥道路局長からご挨拶をいただきました。

次に表彰が行われ、協会業務に多大の貢献をされた高橋雄二氏（株）石川代表取締役社長、宮川訓氏（宮川興業株）代表取締役、河合信輔氏（北陸道路標識株）代表取締役社長、種村隆行氏（株）関西ライン取締役副社長）に清水会長から表彰状が授与されました。



議事の第1号議案「令和3年度事業報告（案）」、第2号議案「令和3年度決算報告（案）」、第3号議案「理事選任の件」は、全て異議なく承認されました。

報告事項は、「令和4年度事業計画」と「令和4年度収支予算」が報告されました。

最後に、理事に選任された岩月正英氏の挨拶がありました。

総会終了後に全国道路標識・標示業政治連盟（東久雄会長）の第6回通常総会が開催されました。

総会終了後の意見交換会は開催されませんでした。



会長挨拶

清水 修一

一般社団法人全国道路標識・標示業協会 第59回通常総会の開催に当たり、ご挨拶申し上げます。

本日は、公務ご多忙の中、ご来賓として、警察庁からは楠芳伸交通局長、国土交通省からは村山一弥道路局長のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、両省庁には、日頃多々ご指導を賜っております。協会を代表して、心より厚く御礼を申し上げます。

足掛け3年になりますが、なかなか終息の兆しが見えない新型コロナウィルス感染症の拡大、まん延防止対策で、協会活動も多大な影響を受け、各種の会議、イベント等が、中止やリモートでの開催など、様々な影響が出ております。

このような中ではありますが、基幹技能者講習や、講師研修会などは、十分な対策を立てながら実施いたしました。

基幹技能者更新講習は通信講座で行い、全国事務局長・事務担当者会議はオンラインで開催するなど、様々な工夫をしながら、業務を行ってまいりました。

また、両省庁の人事異動時や新年の御挨拶、そして、肝心の要望活動は、人数を絞りながらではありましたが、例年どおり実施しています。

さて、我々の経営環境につきましては、思うような回復の兆しが見えない中、公共工事関連予算は、いささかの増加傾向は見受けられますが、長期にわたり低迷傾向にあり、我々の関連予算の獲得には、管理者の皆さんも大変苦慮しているところではないかと思われます。

我々、全標協の仕事は、日頃から、「仕事づくり」、「人づくり」、「組織づくり」の3つが大きな柱であると考え、業界の発展に努めてまいりました。

「仕事づくり」でありますと、予算獲得には欠かせない両省庁への要望活動は積極的に行っています。

国交省担当者様との勉強会も、規模は縮小した形でありますと、例年どおり実施しています。

自民党の先生方、国交省・警察庁両局長との「道路標識等議員懇談会」も定期的に実施していただき、要望活動をさせていただいております。

昨年から「第11次交通安全基本計画」が始まりましたが、千葉県八街市で児童5人が死傷する事故が

発生し、ほかにも児童を巻き込んだ悲惨な事故が数多く発生しています。

このような事故を無くすためにも、我々は交通事故・死亡事故の防止に必要な予算要望活動を丁寧に行い、標識・標示・防護柵などの安全施設の充実に努めてまいらなければと考えています。

また、この「第11次交通安全基本計画」でありますと、この「11次」では、初めて、標識標示について明確に、ハッキリと触れられており、「特に、横断歩行者優先の前提となる横断歩道の道路標識・道路標示が、破損、滅失、褪色、摩耗等の理由によりその効果が損なわれないよう効率的かつ適切な管理を行う」と具体的な表現が示されました。

これは、国の計本計画として作成されましたが、各都道府県でも全く同じバージョンで作成しています。

この基本計画を、予算獲得の応援団として活用していただきたいと考えています。

次に、「人づくり」でありますと、全標協では、我々の3つの技術資格、「路面標示施工技能士」、「登録基幹技能者（標識・標示）」、「道路標識点検診断士」の技術者の育成に努めており、能力の高い技術者を数多く育てる努力をしています。

そして、次に挙げられるのは、我々の技能労働者の高齢化の問題です。

建設業全体の担い手不足は、数年来の我が業界の喫緊の課題であることは、共通認識となっています。

建設業専門工事業全体の傾向として言える事ですが、技術者の年齢分布を見てみると、約半分近くの方は50代以上の方が占めており、若い人、若年技術者がなかなか入ってこないのが現状であります。

業界の将来を考えると、どうしても若い人の獲得を進めていかねばなりません。

今の若い人たちは、土日に学校へ行ったことがなく、週休2日は当たり前の社会で育ってきたので、高校の就職進路指導の先生に話を聞くと、給料よりも休みの多い企業を希望する生徒が多いそうです。

我々の業界は、週休2日制を採用するのには多くの課題を抱えています。

土日に休んで、平日に雨降りだったら仕事をする時が無くなるし、年度末の仕事の繁忙期にはどうするのか、という問題も多く抱えています。

若い技術者を確保するためには、完全週休2日制

への移行はともかくとして、変則型でも週休2日制への移行は、もうすぐにでも考え、工夫しながらでも越えて行かねばならない、大きな山であると考えています。

それと同時に、建設技能労働者の平均年収を全産業平均並みに押し上げること、それを達成するためには、当然、ダンピングを防ぎ、受注価格の引上げのための努力をすること、このような取組が必要であります。

昨今の新しい「働き方改革」なども見据え、これからの人々の獲得、「人づくり」を真剣に考えなければならない時に来ていると思っています。

最後に、「組織づくり」ですが、組織は、できるだけ大きく、力あるものにしていかなければなりません。「数は力」と言われます。

全標協は、バブルの崩壊とともに会員数が減少

し、平成22年には399社まで会員が減りました。その後、全国の各支部、県協会の皆さんのおかげで、今日現在では593社まで増えてまいりました。

まだ、全国には未加入の仲間がいます。

協会入会への勧誘活動をし、一緒に業界の発展に、また、交通事故の撲滅に、共に働くことのできる、数は力になるような、強力な「組織づくり」をしていきたいと考えています。

結びになりますが、全標協本部は、今年度も支部の皆さん、県協会の皆さんとともに力を合わせ、業界発展のため、掲げさせていただいた課題に真摯に取り組んでまいりたいと考えています。

協会活動の大きな柱、「仕事づくり」、「人づくり」、「組織づくり」をしっかりと進めていく所存でありますので、お力添えをよろしくお願い申し上げます。

会長表彰の被表彰者

◇表彰状

支 部	氏 名	所 属	支 部	氏 名	所 属
北海道	加納 義幸	北海道ライナー(株)代表取締役	関 西	種村 隆行	(株)関西ライン取締役副社長
東 北	高橋 雄二	(株)石川代表取締役社長	中 国	住吉 健	児島産業(株)代表取締役
関 東	宮川 訓	宮川興業(株)代表取締役	四 国	小畠 営一	協道標識(株)代表取締役
北 陸	河合 信輔	北陸道路標識(株)代表取締役社長	九 州	坂本 強	長星安全産業(株)取締役副社長
中 部	笹尾 和夫	(株)東亜製作所 代表取締役			

◇優良技能者表彰

支 部	氏 名	所 属	支 部	氏 名	所 属
北海道	佐藤 隆之	柴田興産(株)	関 西	島村 悅司	白陽化学工業(株)
	吉田 良則	(株)森本商会		吉ノ谷昌志	阪神装路(株)
東 北	菊池 秀樹	(有)アメニロード	中 国	山口 健一	サンコー安全(株)
	梅津 直人	(株)リンペイ		赤木 智春	山陽エースライン工業(株)
関 東	将基 裕司	(株)アークノハラ	四 国	山田 栄一	(株)桃陵工業
北 陸	松坂 康弘	岡部企画(株)		大崎 一輝	(有)保安技建
	望月 亮太	(株)安全	九 州	中島 啓輔	双葉工業(株)
中 部	小西 博之	美松工業(株)		太田成一郎	(株)エナミ道路標識
	樋守 富広	(株)佐藤興商	沖 縄	喜納 政利	沖縄道路興業(株)
	大西 貴彦	愛岐工業(株)		浦崎 直文	國幸興發(株)

◇感謝状

本 部	飯田 裕一	前理事	北 陸	大上戸文男	前事務局長
-----	-------	-----	-----	-------	-------



祝　辞

警察庁 楠 芳伸 交通局長

本日ここに、全国道路標識・
標示業協会第59回通常総会が
盛大に開催されますことを、
心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、
平素から道路標識・道路標示の設置を通じまして、
安全かつ円滑な道路交通の確保に御尽力いただいて
おりますことに対し、この場をお借りして、厚く御
礼申し上げます。

さて、昨年の交通事故による死者数は、2,636人で、
警察庁が保有する昭和23年からの統計で、5年連続
で最少を更新しました。

これもひとえに、平素から交通安全活動に携わる
皆様の多大なる御尽力のたまものであり、心から感謝
を申し上げます。

しかしながら、今なお多くの尊い命が交通事故で
失われており、昨年6月には、千葉県八街市において、
下校中の小学生の列にトラックが衝突し、5名
が死傷する痛ましい交通事故が発生するなど、交通事故情勢は依然として厳しい状況にあります。

こうした状況を受けて、政府は昨年8月に緊急対策を決定し、通学路等における子供の安全確保や飲酒運転根絶に取り組んでいます。

警察といたしましても、これらの取組に重点を置きつつ、第11次交通安全基本計画に基づき、政府が目標とする「世界一安全な道路交通の実現」に向けて、各界各層と連携しながら、交通安全施設等の整備、子供や高齢者をはじめとする歩行者の安全確保、自転車の遵法意識の向上に向けた交通安全教育や広報啓発活動の推進、飲酒運転をはじめとする悪質・危険な交通違反の指導取締り等の多角的な取組を効果的かつ強力に推進しているところでございます。

交通事故は、国民の誰もが当事者となるおそれのある身近な問題であり、安全で快適な交通社会を実現するためには、関係機関・団体が緊密に連携し、官民一体となって、国民一人一人の交通安全意識を高めていくことが必要不可欠と考えております。

貴協会におかれましては、より良い道路交通環境の実現に向け、道路標識・標示に関する研究開発、技術者の育成等をはじめ、春・秋の全国交通安全運動の機会における広報啓発活動にも取り組んでいただいている、今後とも、こうした活動を推進していただきますようお願い申し上げます。

結びに、本日御参会の皆様の御健勝、御多幸と貴
協会のますますの御発展を祈念いたしまして、私の
挨拶とさせていただきます。



祝　辞

国土交通省 村山 一弥 道路局長

一般社団法人全国道路標識・標示業協会の第59回通常総会が開催されますことをお祝い申し上げますとともに、

日頃より国土交通行政に多大なご支援をいただきしておりますことを、厚く御礼申し上げます。

さて、清水会長をはじめ貴協会幹部の皆様とは毎年意見交換をしているところですが、引き続き予算確保と標識等の分割発注に努めてまいります。分割発注は直轄においてほぼ標準となったところです。

また、維持管理予算の確保によって標識の取り替えも進む中、道路局では標識データベースの整備を進めており、点群データによって個々の標識の状態を把握するなど道路管理のデジタル化を進展させております。

現在は新型コロナウイルスの影響により、インバ

ウンド観光は厳しい状況にありますが、引き続き、観光地を中心に、道路標識の英語表記の改善や「見えづらい」標識の改良を進めるなど、道路標識の改善を進めてまいります。

最近では、自動運転技術の開発が進められています。国土交通省としましても、自動運転車のセンサによる区画線の検知可能性等に関する共同研究を進めており、白線等の路面標示の管理がより重要となってまいりますので、貴協会にもオブザーバーとしてご参画いただいております。

こうした取り組みの推進に当たりましては、全国道路標識・標示業協会会員の皆様のご理解、ご協力が何よりも必要であり、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々のご発展並びに会員各位のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和3年度事業報告

第1 各事業の推進状況

1 技能者育成事業

(1) 登録基幹技能者講習

令和3年11月10日(水)～12日(金)、富士教育訓練センター(静岡県富士宮市)において、建設業法施行規則に基づく登録基幹技能者の資格を取得するための登録標識・路面標示基幹技能者講習を実施した。同講習は74人(標識23人、路面標示51人)が受講し、67人が登録基幹技能者の資格を取得した。

7月に計画していた第1回講習は、新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」という。)拡大のため中止した。

11月に実施した講習は、新型コロナに関する「富士教育訓練センター運用ガイドライン」に沿って実施した。

(2) 登録基幹技能者「更新講習」

登録基幹技能者資格の有効期間(5年)が満了する者を対象とする「更新講習」を6月及び12月に通信講座により実施し、291人(標識124人、路面標示167人)が更新した。

(3) 道路標識点検診断士研修

道路標識点検診断士研修は、9月に富士教育訓練センターにおいて実施する計画であったが、新型コロナのため令和4年1月に延期した。その後再び感染が拡大し、中止することとなった。

(4) 道路標識点検診断士「特例研修」

従来の道路標識設置・診断士の資格を有する者が道路標識点検診断士の資格を得るための道路標識点検診断士「特例研修」を実施した。同研修は、大阪市(KKRホテル大阪)において4月8日(木)～9日(金)に実施し、35人が受講した。

東京都における研修は、4月に実施する予定だったが、令和4年1月に延期となった。しかし、新型コロナの拡大により再度延期し、令和4年度に実施することとなった。

(5) 路面標示施工技能検定

職業能力開発促進法に基づき厚生労働大臣から与えられる路面標示施工技能士の資格を取得するための技能検定について、全標協の役員等が中央職業能力開発協会中央技能検定委員として参画するとともに、都道府県職業能力開発協会が行う実技試験に支部等が運営等の協力を行った。

2 講師研修会

各種講習会の講師のレベルアップ及び講習の充実を図るため、11月8日(月)～10日(水)に富士教育訓練センターにおいて「講師研修会」を実施した。研修会には従来からの講師(講師アドバイザー)及び

支部から推薦された講師27人が出席し、実習や意見交換を行った。

3 広報活動

機関紙「トライック サポーター」は、5回発行する計画であったが、新型コロナのため行事等がほとんど中止になったことなどから、4回の発行となった。会員企業のほか、関係官庁、関係団体等に約5,200部を配布した。

全標協ホームページは、内容の速やかな更新に努め、その充実を図った。

4 道路標識データベース化

道路標識の新規・更新情報を会員企業から収集し、642件のデータベース化を推進した。収集したデータは、本部に蓄積すると同時に、一部は一般財団法人日本デジタル道路地図協会のカーナビゲーションシステムに提供した。

5 地方講習会等への支援

支部や県協会による講習会、研修会等は、新型コロナ拡大のためほとんどが中止となった。茨城県協会の道路標識データベース講習において、全標協職員などが講師を務めた。

6 関係行政機関等への協力

全国交通安全運動、道路ふれあい月間等に協賛した。

株式会社高速道路総合技術研究所(NEXCO総研)から「標識添架に関する技術資料作成」業務を受託し、コリンズ・テクリス登録を行った。

7 関係行政機関等への要望活動

10月11日(月)に会長、副会長及び専務理事が国土交通省の技監、道路局長等関係幹部及び警察庁交通局長を訪れ、要望書を提出して標識標示予算の充実、標識老朽化対策の実施等を要望した。なお、各地方整備局への要望活動は、会長等は訪問せず、支部長等が地方整備局等の関係幹部を訪問した。

国土交通省との勉強会は、6月9日(水)に第8回、11月24日(水)に第9回を国土交通省において開催し、関係幹部に説明及び要望を行った。

8 建設キャリアアップシステム

建設キャリアアップシステムは、一般財団法人建設業振興基金のシステム改修により停止したため、レベルアップ手続等は全標協で対応した。

9 子どもを守ろうプロジェクト

各都道府県で「子どもを守ろうプロジェクト」の活動が行われ、その一部を機関紙「トライック サポーター」で紹介した。

10 賞揚

功労者や優秀技術者への表彰等が的確に行われるよう積極的な上申に努めた。

その結果、清水修一会長が勲章「旭日小綬章」（11月3日付け）を受章した。また、11月25日（木）に岡部裕樹理事と安里浩前沖縄協会会長が国土交通大臣表彰（7月10日付け）を受賞し、10月に4人が優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）を、3人が青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰（建設ジュニアマスター）をそれぞれ授与された。

さらに、表彰規程及び優良技能者表彰規程に基づき、通常総会において会長が協会業務に貢献した8人及び優良技能者20人に表彰状を授与し、役員・支部長を退任した11人に感謝状を授与した。通常総会を欠席した被表彰者は、通常総会において紹介し、郵送等の方法で授与した。

11 図書等の発行

「道路標識ハンドブック」I 及び同II の2021年度版を発行した。

第2 会議等の開催状況

1 総会

5月19日（水）午後2時30分からホテルグランドアーク半蔵門（東京都千代田区）において第58回通常総会を開催した。新型コロナ拡大のため、来賓を招かず、体制を縮小して行われた。会議後の意見交換会は中止した。

同総会において下記の決議事項を審議し、いずれも承認された。また、下記の報告事項が報告された。

決議事項

- 第1号議案 令和2年度事業報告（案）
- 第2号議案 令和2年度決算報告（案）
- 第3号議案 理事及び監事選任の件

報告事項

- 1 令和3年度事業計画
- 2 令和3年度収支予算

2 理事会

1回の臨時理事会を開催した。3回の理事会及び2回の臨時理事会は書面決議により行った。

審議事項等は下記のとおりである。

(1) 第1回理事会（令和3年4月、書面決議）

審議事項

- ①正会員の入会承認について
- ②令和2年度事業報告（案）について
- ③令和2年度決算報告（案）について
- ④第58回通常総会の開催について
- ⑤通常総会時の表彰について

(2) 第1回臨時理事会（同5月19日（水））

審議事項

- ①会長、副会長及び専務理事の選定の件
- ②顧問を委嘱する件
- ③正会員入会承認の件

(3) 第2回臨時理事会（同6月、書面決議）

- ①正会員の入会について

(4) 第3回臨時理事会（同8月、書面決議）

- ①正会員の入会について

（5）第2回理事会（同11月、書面決議）

審議事項

- ①正会員の入会承認について
- ②令和4年度諸会議予定（案）について
- ③令和4年度講習・研修実施計画（案）について

報告事項

- ①令和3年度上半期収支報告及び年度収支見込について

（6）第3回理事会（令和4年3月、書面決議）

審議事項

- ①正会員の入会承認について
- ②令和4年度事業計画（案）について
- ③令和4年度収支予算（案）について
- ④道路標識点検診断士登録規程の改正について

報告事項

- ①令和4年度講習・研修実施計画（案）について
- ②NEXCO総研からの受託業務について
- ③「道路標示黄色」色見本の製作について
- ④令和4年度諸会議予定について
- ⑤令和4年度支部総会予定について

3 支部長会

支部長会を明治薬科大学剛堂会館において1回開催した。4回（うち1回は東ブロック支部長会）開催する計画であったが、新型コロナのため3回は中止となった。

議事等は下記のとおりである。

（1）第2回支部長会（令和3年10月26日（水））

議事

- ①交通安全事業に係る国土交通省、警察庁要望について
- ②講師陣の世代交代と道路標識点検診断士更新研修への対応について
- ③講師研修の概要について
- ④その他～生活道路安全対策ツール「e-防図システム」の活用について

4 全国県協会長会議

例年5月に開催している全国県協会長会議は、新型コロナ拡大のため中止となった。

5 西ブロック内支部長・県協会長会議

10月に大阪市で開催を計画していた西ブロック内支部長・県協会長会議は、新型コロナ拡大のため中止となった。

6 各委員会

広報・教育委員会は、在京委員による委員会を4回開催した。委員会では、機関紙「トラフィック サポーター」の編集方針など全標協の広報活動について審議した。

その他の委員会は、新型コロナ拡大のため中止となつた。

7 賛助会員との意見交換会

例年1月に開催している「賛助会員との意見交換会」は、新型コロナ拡大のため中止となつた。

各支部の総会開催状況

(一社) 北海道協会（伊藤勲会長）は、書面決議で行いました。

東北支部（山田幸人支部長（当時））は、5月12日(木)13時30分から「パレスへいあん」で開催し、笠原専務理事が出席しました。



関東支部（前島敏雄支部長）は、5月12日(木)14時30分から「ホテルルポール麹町」で開催し、清水会長、新美副会長が出席しました。石井祐司氏（元航空自衛隊空将補）の「国際環境雑感」と題する講演が行われました。

中部支部（前山達彦支部長）は、5月16日(月)15

時30分から「名鉄グランドホテル」で開催し、新美副会長、小池専務理事が出席しました。

関西支部（鳥山政博支部長）は、5月13日(金)15時から「ホテルプリムローズ大坂」で開催し、清水会長が出席しました。

中国支部（宮川裕正支部長）は、5月13日(金)15時から「メルパルク広島」で開催し、新美副会長が出席しました。

(一社) 四国協会（吉田隆敏会長）は、5月13日(金)16時から「ザ・グランドパレス徳島」で開催しました。

(一社) 九州協会（今別府英樹会長）は、5月16日(月)16時30分から「博多サンヒルズホテル」で開催し、光吉副会長が出席しました。

(一社) 沖縄協会（金城博文会長）は、5月20日(金)10時から「西原町中央公民館」で開催しました。

意見交換会（懇親会）は、中部、関西及び中国の3支部で行われました。

道路標識点検診断士更新研修が始まります

道路標識点検診断士は平成31年（2019年）に国土交通省技術者資格として登録された国の認定資格で、公共工事の総合評価落札方式の入札において加点評価されます。

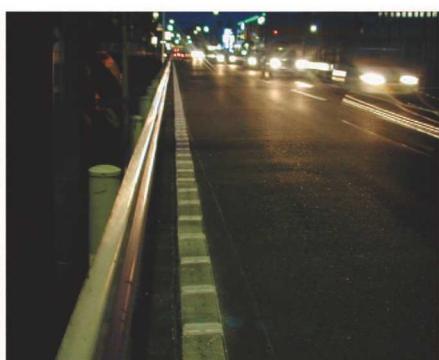
資格の有効期限は5年間で、修了証に記載の有効期限から1年前より更新研修を受講できます。

最初の更新研修は今年12月の実施予定となりますが、令和5年度からは通常年2回（第1回6月頃、

第2回12月頃）実施する予定です。

更新研修の受講には事前に一定の単位又はユニットの取得が必要ですが、コロナ禍であることなどを勘案し、単位数には経過措置を設ける対応をしています。

有資格者には7月上旬までに詳細をメール配信していますので、必ずご確認下さい。



視聴覚型路面標示
バイブルライン

 日本ライナー株式会社
 SHINGOKIZAI
信号器材株式会社
安全を通じて社会に貢献する。

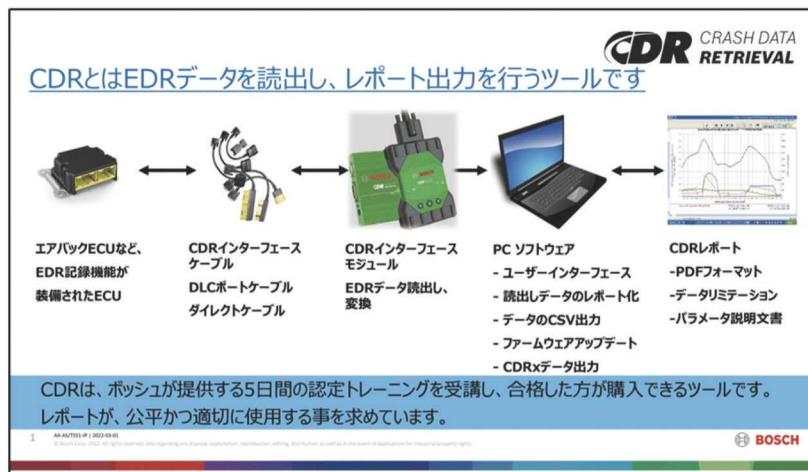
EDRとCDR<これからの交通事故解析の方法>

全標協理事 モータージャーナリスト 菰田 潔

全標協の会員の皆さまは社員の方も含めてクルマに乗って仕事をし、プライベートでもクルマ移動が多いと思います。そこで問題になるのが交通事故です。自分は悪くないと主張しても相手がいる問題なので、なかなか思いどおりに解決できないのが現実です。

これまで保険会社のアジャスターという立場の人が7対3ですね、とか、6対4ですねなどと責任割合を決めたケースが多かったと思います。しかし

これからは車両に搭載されたEDR（イベント・データ・レコーダー）内に記録された事故データをボッシュのCDR（クラッシュ・データ・リトリーバル）を使ってパソコンに読み出し、その詳細なレポートから事故を解析するという手法が取れるようになっていきます。そこから責任の割合をどうするかを決めるわけで、事故後の解決方法も大きく変わる可能性があります。

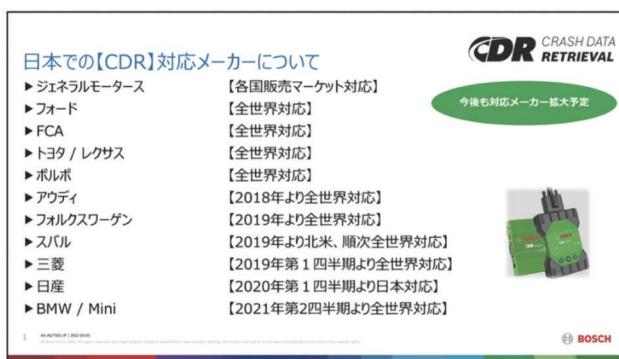


アメリカでは乗用車と小型トラックの99%にEDRが搭載されています。2012年9月からEDRを搭載するときの基準が設けられ、そのデータの公平性を保つために第三者が読み出しができるようになっています。その一つがボッシュのCDRで対象メーカーの90%をカバーしている業界標準ツールです。

日本でも2022年7月1日からすべての新型乗用車、中型までの商用車にEDRの搭載が道路運送車両法で義務付けられました。

この法律が施行される前にすでにEDRを搭載しボッシュのCDRで読み出しできるクルマは半数ほどあります。トヨタは10年以上前から、SUBARU、

三菱は2019年から、日産は2020年から対応になっています。これからは法律が施行されたため、日本でもEDR搭載車がどんどん増えていきます。



ここである交通事故例を取り上げて、新しい事故解析の方法をご紹介しましょう。

A車、B車、C車の3台が絡む事故がありました。A車は後ろが凹み、B車は前と後ろが凹み、C車は前が凹んでいました。3人のドライバーの証言には食い違いがあり、事故の詳細がわかりません。

A車のドライバーは人が飛び出してきたので急ブレーキをかけて止まりました。人を跳ねなくて良かったと安堵したところに、後ろからB車がぶつかってきました。

B車のドライバーは、A車が急ブレーキをかけて止まったので私も急ブレーキをかけてなんとかA車

にぶつからずに止まることができそうだと思ったときにC車が後ろから勢いよくぶつかってきたため、前に押し出されてA車にぶつかってしまいました。

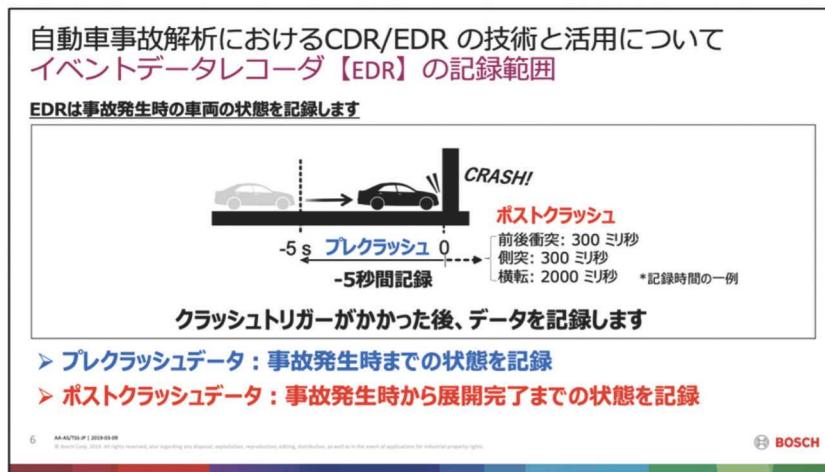
C車のドライバーは、B車がA車にぶつかって急に止まつたので、避けきれずにぶつかってしまった。先にぶつかったのはB車で私は後からぶつかった。

という言い分でした。もしあなたがB車のドライバーだとしたら、自分の正当性をどうやって証明したら良いでしょうか？これはなかなか難しいです。

このケースではB車が減速中にC車に追突された

のですが、C車が追突しなくてもB車はA車にぶつかっていたはずだと主張されるとB車は不利な状況になってしまいます。

そこでB車に搭載されているEDRからボッシュのCDRを使い、クラッシュデータ（ぶつかったときの情報）を読み出します。年代やメーカーにより多少違いはありますが、衝突5秒前から衝突後0.3秒まで時系列で記録が残っています。さらにこのような多重衝突の場合には連続したデータとして複数の衝突が記録されるようになっています。



これまでならドライブレコーダーの記録映像や音声により少しは真実に近づけたかもしれません、それでも揉めることができます。

ドライブレコーダーの記録が自分に不利になる場

合は相手から要求されても、故障していて記録されなかったとか、メモリーが入っていないかったとか理由をつけて提出しないケースもありますから、ドライブレコーダー頼りにはできないのです。

自動車事故解析におけるCDR/EDR の技術と活用について ドライブレコーダーとCDR/EDRとの一般的な比較				
項目	従来の調査【人/車/現場】	ドライブレコーダー【ダッシュカム】	EDR【イベントデータレコーダー】	マーク
事故周辺情報	現場検証	ビデオ映像	無し	
信号機の情報	目撃証言、聞き取り	ビデオ映像、信号機の色	無し	
衝突地点の特定	現場検証、目撃情報、証言	ビデオ映像、推定	TIMEZERO データ分析	コネクティッドカーでは可
衝突時刻の特定	目撃情報、証言	ビデオ映像、ビデオの時刻	ECU稼働時間、IGサイクル	コネクティッドカーでは可
衝突順序の特定	目撃情報、証言	ビデオ映像、推測	TIMEZERO 時系列(sec)	
運転操作	証言	無し	ブレクラッシュデータ	
自動車の動作	証言	無し	ブレ、ポストクラッシュデータ	
車両速度	現場検証、証言	ビデオ映像、推測	ブレクラッシュデータ	
事故の規模、入力角	車両損害調査	ビデオ映像、推測	ブレ、ポストクラッシュデータ	
乗員の着座状態	証言	無し	ブレクラッシュデータ	

*ボッシュ調べ：一般的な比較として、各機能、事故状況により、範囲は前後します

EDR、ドライブレコーダーは取得するデータが限定的である為、複合的に使用する事が望ましい
特に調査ミスを防ぐため、必ず従来の調査手法と合わせてデータを使用する必要がある
ただし、踏み間違い、ADASシステムの動作状況などの解析作業には、EDRデータが必須

EDRにはドライブレコーダーには記録されないような細かい情報が詰まっています。クルマの走行スピード、アクセルペダルを何パーセント踏んでいたか、エンジン回転数、ブレーキペダルをどれくらいの力で踏んでいたか、ハンドルをどれくらい切ったか、シートベルトをしていたかどうかまで記録され

ます。

下の図は衝突約5秒前から0.5秒ごとに各項目がどう変化したのかがわかる表ですが、スピードやGの変化などはわかりやすくグラフで表示される場合もあります。

**自動車事故解析におけるCDR/EDR の技術と活用について
CDRレポートの【プレクラッシュデータ】例**



Pre-Crash Data -5 to 0 seconds (1st Prior Event, TRG 3)											
Time (sec)	-4.05	-4.15	-3.65	-3.15	-2.65	-2.15	-1.65	-1.15	0.05	0.15	0 (TBC)
Vehicle Speed (km/h [mph])	36.0 [58]	36.0 [58]	36.7 [59]	36.7 [59]	36.7 [59]	36.7 [59]	36.7 [59]	36.7 [59]	35.4 [57]	26.6 [44]	26.1 [42]
Accelerator Pedal, % Full (%)	12.5	14.0	12.5	12.5	8.0	11.5	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0
Brake Pedal, % Full (%)	7.5	8.0	7.0	6.0	3.5	4.5	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Engine RPM (RPM)	1,500	1,400	1,400	1,400	1,300	1,400	1,400	1,300	1,300	1,100	1,000
Steering Wheel (DTR)	Invalid										
Service Brake, (DTC)	OFF	ON	ON	ON							
Brake Oil Pressure (MPa)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.12	10.32	10.46
Longitudinal Acceleration (m/s²)	0.287	0.287	0.215	0.287	0.144	0.144	0.287	0.215	-2.517	-6.747	-3.517
VSC Sensor (deg/sec)	0.00	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	1.40	0.49	-0.27	-6.03	-0.30
Steering Input (degrees)	0	0	0	0	0	0	0	0	-49	-15	-39
Shift Position	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
Sequential Shift Range	Undetermined										
Corner Control (deg)	OFF										

システムのエラー？操作ミス？ EDRデータが有力な状況証拠に

© BOSCH

B車のCDRレポートを解析することにより、最初に後ろからぶつけられ、加速して前にぶつかったことが判明します。

それぞれの衝突時の衝撃の強さ（デルタV）が記録に残っていて、双方のクルマの重量がわかるとC車の接近スピードまで計算で出すことができます。

重要なのは、B車はC車に追突されなければA車にぶつからなかったのかどうかです。これもCDRレポートから追突されてどれくらい加速したかがわかり、A車に衝突するまでの時間もわかりますから、A車までの距離も計算できます。C車に追突されたときのB車のスピードが記録されているので、B車はA車の手前で止まることができるかどうかは明確にわかるのです。

このように3台が絡んだ事故でも、1台のクルマのCDRレポートを解析することによって事故の全容が解明できることもあります。

プライバシーの観点からEDRには映像や音声は記

録されていません。（最新のBMWの一部の車種では駐車時に使う前後左右のカメラの映像を衝突前後30秒ずつドライブレコーダーとして記録されるものもあります。）

総合するとEDRデータとドライブレコーダーの映像を合わせて使うことで、より正確な事故解明できると思います。交差点の信号機が赤色だったか青色だったかはEDRでは判らないからです。

EDRからCDRを使ってデータを読み出し、そのレポートを解析するにはボッシュの講習を受けて資格を取らなくてはなりません。読み出しと解析ができるのはCDRアナリストで、読み出しするだけはCDRテクニシャンと呼ばれる資格です。

筆者はCDRアナリストの資格を2019年に取得していますので、何かあればご用命ください。全標協会員特別割引価格にて対応させていただきます。

(資料提供：ボッシュ株式会社)



理事就任のご挨拶

スリーエムジャパン株式会社 トランスポーテーションセーフティ事業部 事業部長 岩月 正英

この度、第59回通常総会におきまして、理事職の大任を仰せつかりました岩月正英です。微力ながら皆様のお役に立てるよう一生懸命に努めてまいります所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、私は平成3年の入社以来交通安全に携わる部署に所属し、交通安全とそれを支える要である交通安全施設に造詣の深い皆様にご指導をいたいと申ました。諸先輩方に比して30余年とまだまだ短い私の経験のなかでも、道路と道路を取り巻く環境の変化、交通安全施設の変化には目を見張るばかりです。

例えば道路標識では高度化・大型化などのハード面の充実により、視認性の向上による安全性の確保を目指とした施策が進んだことで、ドライバーにとってより遠くからより見やすい標識が整備されております。一方、路

線番号による案内の充実（H4ポインター計画）、ピクトグラムの追加、英語表記、バリアフリー標識、高速路線番号の表示といったソフト面の充実により、日本人を含むすべてのドライバー、そして歩行者にも判りやすい標識の整備がなされています。

また、各国での道路標識の色・形状・内容・設置方法など、一定のフォーマットには近いものがあると感じる一方、それぞれの国や地域の成り立ち・交通需要の変化を背景とした変化・進展が見られます。

日本では、少子高齢化、テクノロジーの進展や複雑化、インフラの保全、気候変動対策、感染対策、安全性の向上といった社会的需要・課題に応じて今後も様々な変化があり、交通安全施設にも同様に変化と発展が求められて行くと考えます。今後とも皆様にご指導ご鞭撻を賜り、皆様のお役に立つよう取り組んでまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

関東支部事務局長就任挨拶

齋藤 正訓



令和4年4月1日に全国道路標識・標示業協会関東支部の事務局長並びに、東京都協会の総務部長を仰せつかりました齋藤正訓（さいとうまさのり）でございます。昨年7月より、日本たばこ産業株から出向という形

でお世話になっておりましたが、このたび正式に採用を頂きました。

出身は福島県、幼少期から勉強はさておき野球一筋の毎日を過ごしておりました。高校時代は甲子園を目指し、その先はプロ野球という大きな夢を抱いておりましたが、残念ながら双方とも叶えることはできず、これまで考えもしなかったサラリーマン人生を歩む事となりました。

昭和60年に専売公社から民営化となった日本たばこ産業株に入社し、主に営業部門で37年間勤務いたしました。

携わった業務は個店営業・法人営業、また企画立案・戦略策定や人事労務管理など、幅広い経験（厳しい）をさせて頂きました。この3月で定年退職したところですが、入社からこれまでの合理化で社員数が35,000人から8,000人まで大幅削減された事はとても残念に感じているところです。（たばこは厳しい…）

プライベートな話では、妻1人、息子1人、娘2人、愛犬1匹（ミニチュアシュナウザー）の家族構成です。現在の楽しみといえば妻と愛犬（アウディ）を連れ愛車AUDIで遠方までドライブ旅行すること、また長く携わっているソフトボールスポーツ少年団での毎週土日の活動（監督）です。

最後になりますが、これまでの会社人生で培った経験を活かし、全標協（関東支部・東京都協会・政治連盟）発展のため尽力してまいりますので、皆様どうぞよろしくお願ひ致します。

中部支部事務局長就任挨拶

岩崎 正之



本年4月1日に全標協中部支部（愛知県協会兼務）事務局長として採用していただきました岩崎正之です。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は、昭和59年3月に大学を卒業し、2年間地元の信用金庫に勤めた後、警察職員採用試験を受け愛知県警察の事務職員として、警察活動の基幹業務に従事しました。36年間大穢なく無事勤めを終えることができましたのも、ひとえに周囲の方々の支えがあったものと感謝しております。

前職最後の1年は、名古屋市にあります1日平均5千人ほどの方が来場する運転免許試験場の次長として、免許証の新規取得、更新などの免許行政に従事させていただきましたが、交通関係の業務に携わったのは後にも先にもこの1年のみであります、その大半を支出・契約、物品管理、監査・検査等の会計業務に従事してまいりました。

特に平成6年4月から4年間の警察本部会計課勤務時には、道路標識・標示の検査職員として、施工工事完

了時における完了検査も担当していたことから、数多くの施工業者の方々と愛知県内くまなく施工現場に連れて行ってもらいました。検査を行う過程において天候に左右されたり、夏冬の厳しい環境下での工事の大変さや交通安全に直結した重要で必要不可欠な業務であることも検査を通して学ばせてもらうことができたことを思い返してみると、こうして退職した後に県民の安全を守り道路環境の維持に努められている会員の方々の一員にさせていただいたのも何かご縁があったように思えてなりません。

とは言うものの未知の領域での再出発、今まで培ってきた経験を生かしてお役に立つことができるのか心配や不安が消えることはありませんが、支部長、会長、事務局の皆さんとのやさしい気遣いには心が安らぎ、感謝しております。第2の人生がスタートしたばかり。健康に気を付けて事務局長として与えられた役割を前を向いて一步一歩着実に果たしていこうと思います。

今後とも、役員、会員の皆様方からのご指導、ご助言をいただき、微力ではありますが頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

夜間の安全走行を
サポートする3Mの
テクノロジー

3M Japan Group
スリーエム ジャパン株式会社
トランスポーテーション セーフティ事業部
〒141-8684
東京都品川区北品川6-7-29
<http://www.mmm.co.jp/ref/>

3M™ 全天候型溶融式路面標示材 3M™ All Weather Thermoplastic (AWT)



AWTは雨天時用の反射エレメントと大粒径ガラスビーズを混合した特殊反射粒子を散布することにより、雨天時・晴天時ともに優れた視認性を提供します。

カスタマーコールセンター
製品についてのお問い合わせはナビダイヤルで
0570-012-123
ナビダイヤル 市内通話料金でご利用いただけます。
受付時間／8:45～17:15 月～金(土・日・祝・年末年始は除く)
3M. ダイヤモンドグレードは3M社の商標です。

3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シート(広角プリズム型フルキューブ)



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³
超高輝度反射シートは、マイクロリプリケーション（高精細表面）技術によって（ほぼ）100%の反射面をもつ夜間でも明るく見やすい、反射シートです。



お 知 ら せ

入 会

- (株)MSK (関東支部)
代表取締役 大澤 由紀夫
〒336-0031 埼玉県さいたま市南区鹿手袋7-11-1
Tel.048-872-0050 Fax.872-0051
- (株)セイフティ (関東支部)
代表取締役 榎居 智之
〒273-0024 千葉県船橋市海神町1-1569-1-607
Tel.047-431-6307 Fax.431-6531
- 日本ラインサービス(株) (関東支部)
代表取締役 大沼 秀人
〒276-0015 千葉県八千代市米本2154-1
Tel.047-489-6100 Fax.489-6104
- 林産業(株) (関東支部)
代表取締役 林 茂樹
〒289-3181 千葉県匝瑳市野手17146
Tel.0479-67-3560 Fax.67-4883
- 丸栄産業(株) (関東支部)
代表取締役 高橋 潤
〒299-0241 千葉県袖ヶ浦市代宿106-1
Tel.0438-38-3600 Fax.38-6210
- (株)交安 (関東支部)
代表取締役 永澤 成光
〒216-0002 神奈川県川崎市宮前区東有馬5-26-10
Tel.044-856-1400 Fax.856-1840
- (株)フロシャイム (関東支部)
代表取締役 成田 忍
〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口4-13-18
Tel.044-812-1178 Fax.812-1001

代表者変更

- 山田塗装(株) 札幌支店 (北海道協会)
代表取締役 山田 幸人→青木 美芳
- 山田塗装(株) (東北支部)
代表取締役 山田 幸人→青木 美芳
- (株)サンテック (関東支部)
代表取締役 樋澤 義明→石関 弥里
- 中央ライン(株) (関東支部)
代表取締役 蓮見 実→小沢 竜也
- (株)日装 (関東支部)
代表取締役 柴田 信昭→峯崎 義弘
- (株)日装エスティー (関東支部)
代表取締役 峯崎 寛→大和田 裕一郎

- (株)ベルテックガイア (関東支部)
代表取締役 瀧澤 藤夫→鎌田 敦
- (株)CTSラインテック (関東支部)
代表取締役 古家 正紀→児玉 隆博
- 北陸道路施設(株) (北陸支部)
代表取締役 中川 健一→徳野 淳司
- (株)コウエイ (中部支部)
代表取締役 小塚 晃生→小塚 勇樹
〒457-0054 愛知県名古屋市南区砂口町85
Tel.052-822-5137 Fax.変更なし
- エスジェイシー寿(株) (中部支部)
代表取締役 岡 郁智→野中 良成
- (株)ヤマサ (四国協会)
代表取締役 坂本 洋介→浅田 真一郎
- 日本乾溜工業(株) (九州協会)
代表取締役 伊東 幸夫→兼田 智仁

住所等変更

- (株)セーフティーロード (東北支部)
〒036-0221 青森県平川市中佐渡南田18-21
Tel.0172-26-7520 Fax.26-7521
- アトムテクノス(株) (関東支部)
〒343-0111 埼玉県北葛飾郡松伏町松伏3236
Tel.048-991-7754 Fax.991-3624
- 日本ガラスピーズ協会 (賛助会員)
〒300-2662 茨城県つくば市下河原崎254-36
ポッターズ・パロティーニ(株)管理部内
Tel.029-847-7483 Fax.848-1058

事務局長変更

- 全国道路標識・標示業協会 関東支部
事務局長 南雲 靖秀→齋藤 正訓
- 全国道路標識・標示業協会 中部支部
事務局長 岡山 雄一→岩崎 正之

広報・教育委員会委員
(トラフィックサポーター編集担当)

委員長	松村みち子	石川 盛昭	磯兼 忠
委員	荒原 和愛	小畠 営一	笠原 孝志
	岡根 隆資	菰田 潔	齋藤 正訓
	鎌田 洋一	辻野 善久	長嶋 良
	塚田 哲也	藤岡 基樹	本多 徹
	中村 弘一	山下 利治	(五十音順)
事務局	前田 年輝	村上 寿一	